

用語解説

【林分】

林相がほぼ一様であって森林の取り扱いの単位となる樹木の集団及びそれが生えている林地を合わせて林分という。樹木の集団のみを林分ということもある。森林を区画したり管理する場合の基本単位である。元来は一斉林に用いられていた概念であるが、複層林や異齢林、混交林にも適用される。森林を林相区分するとき、1 ha 以上の面積を林分、1～0.5ha を小林分、0.5～0.1ha を団などとして区別することがある。

【林分構造】

林分構造とは、林分の林冠層の違い、すなわち高木や低木など立木構成状態を空間分布として表したものである。なお、林分とは、樹種、年齢、立木密度、生育状態などがほぼ一様で、隣接したものは森林の様相（林相）によって明らかに区別がつく一団地の森林をいう。

【生物多様性】

生物多様性条約によれば、「生物多様性とは、すべての分野、特に陸上生態系、海洋及び水生生態系並びにこれが複合した生態系における生物の変異性をいうものであり、種内の多様性（遺伝的多様性）、種間の多様性（種多様性）、及び生態系の多様性（生態系多様性）を含むものである」と記されている。

種内の多様性は遺伝子の多様性であり、生物多様性は、普通「遺伝子」「種」「生態系」の3つのレベルからなる階層性を備えた概念である。遺伝的多様性は種を構成し、種多様性は生態系の多様性を構成する。したがって生物多様性は、様々な広がりを持つ遺伝子、種、生態系の変異性のアンサンブルである。種レベルの構成要素は生物多様性の要であるが、種の絶滅は遺伝的多様性の低下によって、あるいは生態系の崩壊によって起こる。生物多様性とは、このように遺伝子から生態系までの組織的、機能的階層性の豊かさの概念である。

また、生態系をランドスケープと見れば、生物多様性は上記の3つのレベルでとらえられるが、生態系の上にランドスケープを置いて考えたときには、生物多様性は4つのレベルの階層性で構成される。

出典：(社)日本林業技術協会：「森林・林業百科事典」丸善，2001

【林分】

樹木の種類（組成）とその大きさや密度（構造）がほぼ一様な樹木の集団と、それらが生育しているひとまとまりの林地の呼称。

【樹冠】

1本の木の枝葉の広がり部分。その広がり形状が冠のように見えることから樹冠という。樹冠の連なった状態のものを林冠という。

【林冠】

林木の枝葉の広がり部分である樹冠が隣接木同士連なったもの。

【林床】

森林の地表面。

【植生】

ある場所に生育している植物の集団全体。

【群落】

植物の生活集団のこと。植生という用語も似たものであるが、植生はある場所の植物の生活集団を漠然と指すのに対し、群落はブナ群落などというように、植生のある部分を区別して表現するとき用いられることが多い。ブナ群落とはブナが優占する植物集団のことであり、ブナと混交する樹種や、林床のササ類、草本類などすべての構成種を含んだ植物集団のことである。

【遷移】

ある地域の植生が時間とともに自然に移り変わっていく現象。火山の噴火による溶岩のように、先代の生態系が全く消失した状態からスタートした遷移を一次遷移、先代の生態系、すなわち少なくとも種子や根系を含む土壌が残った状態でスタートした遷移を二次遷移という。我々の周辺で普通に見られるのは二次遷移であり、二次遷移は攪乱の程度などによって様々な状態でスタートする。遷移の終わりの方の安定した段階を極相という。

【極相】

ある立地環境において、長期にわたり形成されてきた、群落の発達段階の終わりの方の段階で、多かれ少なかれ安定した植物群落のことである。

【攪乱（生態系の）】

森林が火災や強風などにより、部分的に、または全体的に物理的影響を受け、それが森林に新たな影響を与えること。攪乱は森林の更新や遷移の進行などを制御する重要な現象である。自然によるものを自然攪乱、人為によるものを人為攪乱と呼ぶ。

【ギャップ】

単木または群状に林木が倒れたりして、上層林冠に孔隙の生じた部分。その部分は光条件がよくなり、稚樹が発生したり、前生樹がよく生育する。

【ハビタット】

ある種にとって生育・生息に適した場所のことで、生息場所と訳されている。植物にとっては温度、水、土壌などの物理的、化学的条件がハビタットの重要な因子であり、動物にとっては温度、水などの条件と餌の得られることが重要な因子である。

【ニッチ】

ある種にとって生育・生息に適した場所であるハビタットの中で、種間の競争やお互いの利益を得る相利などの生物間相互作用の結果得た生息場所のことで、生態的地位と訳されている。棲み分け場所ともいう。気象が穏和で、餌が多く、隠れ場所、営巣場所の多い森林は多くの生物にとってハビタットとなるが、それらの生物は樹冠、幹、枯死木、倒木、表層土壌、林縁など様々な場所にニッチを得ている。

【自然林】

自然度の高い森林。すなわち人為の影響が少なく、ある程度遷移段階の進んだ森林を指すことが多い。

【原生林】

過去に人手が加わらず、大きな自然攪乱の痕跡も見られない森林。極相段階の森林、すなわち極相林と同じ場合が多いが、極相林は過去に人手が入っているものも、遷移の最終段階に達したものは極相林である。実際には過去には多少の人手が入っているものも、その痕跡が見えなくなっているものは原生林と呼ばれていることが多い。したがって、原生林は天然林の遷移の最終段階のものであるともいえる。自然林は原生林を含むが、過去の経歴や遷移の段階などについては、より緩やかな見方がなされるのが普通である。

【二次林】

自然、人為の如何を問わず、何らかの原因により植生が強く、あるいは頻繁に攪乱された後に成立した、二次遷移の途中にある森林のことである。二次遷移とは、前代から残された土壌の上でスタートした遷移である。また二次林とは、原生林（極相林、老齢林）と人工林を除くすべての森林ということもできる。天然林、天然生林ともに原生林（極相林、老齢林）に至るまでの森林は二次林である。

【施業】

目的に照らして更新、保育、伐採（収穫）などを行う、森林の管理に関する林業の用語。最近では森林管理一般にも使われていることがあるが、「業」という字の意味から、本来は林業（木

材生産)において使われるものである。

【天然林】

台風や森林火災などの自然攪乱によって天然更新し、極相までのあらゆる遷移段階（発達段階）を含む森林。厳密には人手の加わらない森林であるが、伐採の影響を受けた天然生林も含めて天然林と呼ぶことがある。

【天然生林】

伐採など人為の攪乱によって天然更新し、遷移の途上にある森林のことである。天然林との違いは、天然林は台風などの自然攪乱によって成立した森林で、遷移の途中相から極相までを含むものである。天然生林も極相に達すれば天然林である。天然林が人為の影響がない（少ない）のに対して、天然生林は天然林的要素を持ちながら、伐採という人為の影響を受けているものである。

【人工林】

植栽または播種により更新した森林。間伐などの保育が行われるのが普通であるが、更新後の手入れの有無は問わない。天然更新し、その後間伐などの手入れを行った森林は、育成林または天然生林と呼んでいる。

【育成林】

天然更新と人工更新の如何を問わず、人手の加えられた森林のこと。その対語は非育成林で、天然林を意味する。植栽または播種により更新した森林を人工林といい、人工林はもちろん育成林であるが、天然更新した森林でも間伐などを施したものは育成林である。

【一斉（単純）林】

一斉林は、皆伐や自然の攪乱の跡に同時に更新した木で構成された森林であり、同齢林と同じ。単純林は同一樹種の森林。したがって一斉単純林は、同齢の単一樹種の森林である。

【混交林】

高木層が二種類以上の樹種で構成された森林。しかし高木性樹種において、高木層と低木層で樹種が異なるものも混交林という場合があり、その場合、混交複層林と呼ぶことが多い。

【老齢林】

文字通り老齢の林を老齢林というが、ここでいう老齢林とは、林分の発達段階における最終段階の老齢林のことで、高木層の枯死木や倒木が含まれ、様々な世代の木からなる階層構造の発達した森林のことである。極相林とほぼ同じである。

【回廊】

開発などによって生息場所を分断されると、孤立した生物の個体群は遺伝的交流を妨げられ、遺伝的組織の劣化が生じたり、遺伝的変異性の縮小により環境変化に対して絶滅しやすくなる。それを防ぐために分断された生息場所を個体群同士が移動し、交わるように設定された野生生物の移動経路のことを回廊（コリドー）という。森林性野生動物を対象とする回廊は、森林の帯であることが普通である。

出典：藤森隆郎：「森との共生－持続可能な社会のために－」丸善ライブラリー322，2000

附属資料

- 森林調査野帳
- 直接観察／痕跡調査 記録用紙
- 鳥類プロットセンサス調査 記録用紙
- 自動撮影調査 記録用紙
- ニオイステーション調査 記録用紙

緑の回廊モニタリング調査 (森林調査野帳)

番号: P1 調査年月日時間: 2003年8月24日 7:30~10:00 天候: 晴れ
 調査者: 金森匡彦、山本照光、加藤仁
 【森林調査簿情報】調査箇所 中部森林管理局 中信森林管理署 607ほ 林小班
 小谷森林事務所 (通称) 天狗原 国有林 長野県 小谷村
 林相: 広葉樹天然林 林齢: 172年生 該当小班面積: 18.28 ha
 施業方法: 天然林施業 法的規制等: 上信越高原国立公園(特) 土砂流出防備保安林, 雨飾天狗原山植物群落保護林, 緑の回廊雨飾干渉
 施業履歴 (間伐・択伐の有無、実施時期、率等): 無し 200m²/ha
 【林分構造区分情報】林種: ①タイプI [天然林], ②タイプII [人工林], タイプII [天然林] ③タイプIII [混交林]
 林分の発達段階: ①林分成立段階, ②若齢段階, ③成熟段階, ④老齢段階, ⑤非老齢攪乱段階
 【地況情報】地形: 山腹中斜面 地質: 安山岩(軽) 大岩あり
 傾斜: 25° 方位: N70°E 標高: 1350 m
 土壌型: 岡行土 水環境: 近くに水場なし

【調査地点を含む周辺地域の概況平面図】(林内及び林外からの写真の[別紙]添付と撮影位置も記載)

【大・中の攪乱 (気象害、病虫害、伐採など) を受けた時期とその大きさ (強さ)、動物のフィールドサイン、倒木の豊凶状況などのコメント】

- 根曲木が多い
- 積雪量は4~5m位か。

番号: P1 調査プロット面積: 20m×50m=1000 m² 群落名: ブナ林
 林相: 広葉樹天然林 他樹種との混交割合:

【高木層: 被度 85%, 優占度 5】

No	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	ブナ	81	30	
2	〃	56	29	
3	〃	92	30	10m付近に樹洞(10cm×20cm)
4	〃	88	30	
5	〃	82	29	
6	〃	66	28	
7	〃	77	29	
8	〃	109	33	3m付近で二股
9	〃		32	→7m付近に樹洞(15cm×30cm)
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P1 【亜高木層; 被度 5%, 優占度 1】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1	ブナ	2	16		
2	〃 (折損木)	1	17		
3	ハウチワカエデ	1	18		
4			19		
5			20		
6			21		
7			22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層; 被度 70%, 優占度 4】

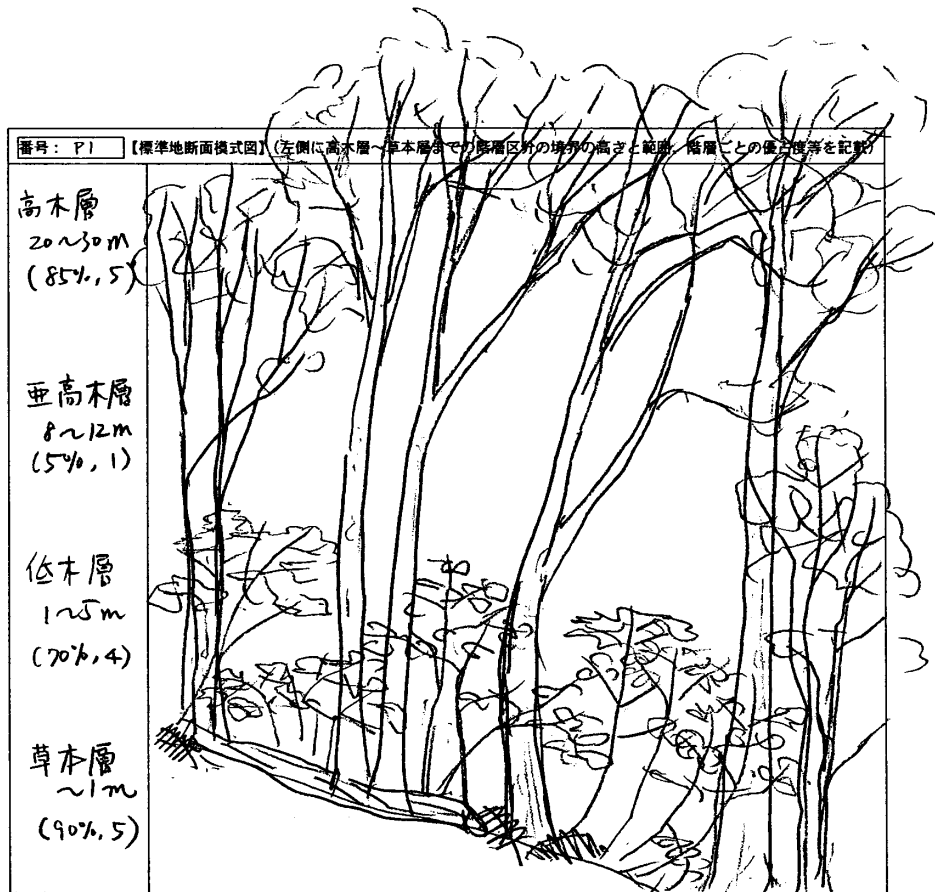
No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ムシカリ	4	21		
2	ヤマウルシ	3	22		
3	ブナ	3	23		
4	オオバクロモジ	3	24		
5	ウリハダカエデ	2	25		
6	コシアブラ	1	26		
7	ツタウルシ	+	27		
8	アオダモ	+	28		
9	ウワミズザクラ	+	29		
10	ミズギ	+	30		
11	ヤマモミジ	+	31		
12	ホオノキ	+	32		
13	コミネカエデ	+	33		
14	ハウチワカエデ	+	34		
15	サカキ	+	35		
16	クマイチゴ	+	36		
17	ヤマブドウ (ツル性)	+	37		
18			38		
19			39		
20			40		

番号: P1 【草本層; 被度 90%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	シラネウラボ	3	16	オオバクロモジ	1	31	ズダヤクシ	+
2	ツタウルシ	3	17	シマカタバミ	+	32	ホウチヤクソウ	+
3	チシマザサ	2	18	カメバヒキオコシ	+	33	シダ sp.2	+
4	オクモミジハグマ	2	19	チジミザサ	+	34	キクバドコロ	+
5	ヤマアジサイ	2	20	オオバコ	+	35	カラクサイワラビ	+
6	ムシカリ	2	21	エンレイソウ	+	36	オサシダ	+
7	シダ sp.1	2	22	トチバニンジン	+	37	スゲスR	+
8	ブナ	1	23	イタドリ	+	38	イヌガンソク?	+
9	ユキザサ	1	24	ツルアリドオン	+	39		
10	ゼンマイ	1	25	ハウチワカエデ	+	40		
11	イワガラミ	1	26	ツバキオモト	+	41		
12	ヤグルマソウ	1	27	イヌワラビ	+	42		
13	ホオノキ	1	28	サンカヨウ	+	43		
14	ヤマウルシ	1	29	ツクバネソウ	+	44		
15	コシアブラ	1	30	ヒメモク	+	45		

【倒木・伐根 (根株)】

No.	倒木名 (わかれば)	直径 (cm)	長さ (m)	No.	伐根・根株名 (わかれば)	直径 (cm)	高さ (cm)
1	ブナ	58	20	1			
2	〃	45	16	2			
3	〃 (腐朽, 二分)	55	3.5	3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			



番号: P1 | 標準地断面模式図 (左側に高木層・草本層を、右側に低木層の境界の高さと範囲、階層ごとの優占度を記載)

【記載に当たっての注意事項】

注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺2本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。

注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。
 ①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)。連続層林は、樹冠が最上層を優占している個体みの樹高・胸高直径を記載。

注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。

注4: 優占度は階層ごとに、ブラウン・プランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。
 【ブラウン・プランクによる優占度階級】
 † きわめて低いが、まばらに生育する。
 1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)
 2 個体数はかなり多い、または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)
 3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)
 4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)
 5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)

注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(パーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。

注6: 亜高木層は、本数も記載する。

注7: 高木層または高木層を形成していると思われる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伐根)を記載。

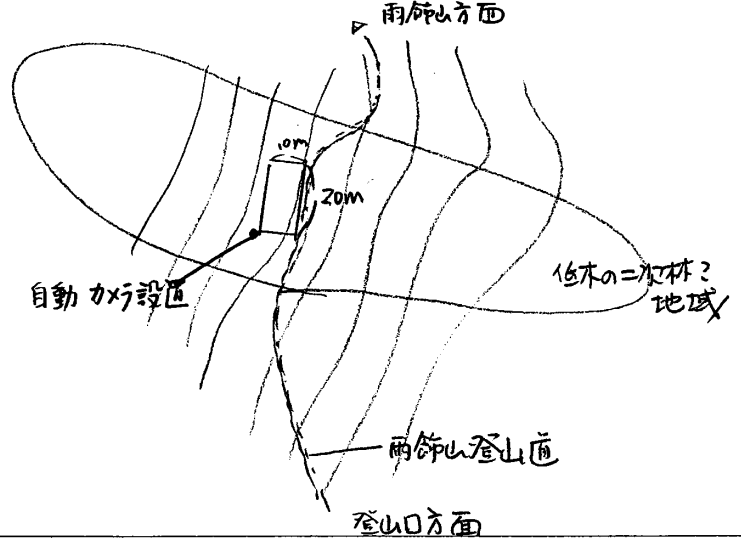
注8: 樹洞は、概略的位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象木とし、長さとし最大直径を測定(1m、2cm括約)。

注9: 根株は、高さとし【胸高】直径を測定(2cm、2cm括約)。それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地にてプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

緑の回廊モニタリング調査(森林調査野帳)

番号: P2	調査年月日時間: 2003年8月24日 10:30~12:10	天候: 晴れ
調査者: 金森匡彦、山本昭光、加藤仁		
【森林調査簿情報】	調査箇所 中部森林管理局 中宿森林管理署	607号 林小班
小谷森林事務所(通称) 天狗原	国有林 長野県 小谷村	15~30年生位か?
林相: 広葉樹天然林	林齢: (172年生?)	該当小班面積: 18.28 ha
施業方法: 天然生林広葉樹 法的規制等: 上信越高原国立公園(特2) 土砂流出防備保安林、雨飾天狗原山植物群集保護林、緑の回廊雨飾戸隠		
施業履歴(間伐・択伐の有無、実施時期、率等): 不明(15~30年生位か?)		
【林分構造区分情報】林種: ①タイプI[天然林] ②タイプII[人工林]、タイプII[天然林] ③タイプIII[混交林]		
林分の発達段階: ①林分成立段階、②若齢段階、③成熟段階、④老齢段階、⑤非老齢擾乱段階		
【地況情報】地形: 山腹中斜面 地質: 安山岩類		
傾斜: 20°	方位: S20°E	標高: 1460 m
土壌型: 強粘土		水環境: 近くに水場あり

【調査地点を含む周辺地域の概況平面図】(林内及び林外からの写真の[別紙]添付と撮影位置も記載)



【大・中の攪乱(気象害、病虫害、伐採など)を受けた時期とその大きさ(強さ)、動物のフィールドサイン、倒木の豊凶状況などのコメント】

- ・豪雪のため 根曲りが著しい
- ・目伐株?した後の二次林か?、まだ層化していない

番号: P2 調査プロット面積: 10m x 20m = 200 m² 群落名:

林相: 広葉樹天然林 他樹種との混交割合:

【高木層; 被度 60%, 優占度 4】(連続層)

No.	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	アオダモ	8	7	豪雪で樹が折れているため、DBHは根元から1.2m、Hは樹長を測定。
2	"	8	6	
3	"	12	8	
4	"	13	10	
5	"	17	12	
6	"	10	7	
7	ブナ	34	14	
8	"	26	12	
9	"	23	9	
10	"	17	12	
11	コハナカエデ	12	6	
12	"	14	6	
13	ウリハダカエデ	20	12	
14	トナリキ	15	6	
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P2 【亜高木層; 被度 %, 優占度】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1			16		
2			17		
3			18		
4			19		
5			20		
6			21		
7			22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層; 被度 80%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ムシカリ	3	21		
2	ヤマモミジ	2	22		
3	コシアブラ	1	23		
4	ブナ	1	24		
5	ヤマブドウ	1	25		
6	マツタビ	+	26		
7			27		
8			28		
9			29		
10			30		
11			31		
12			32		
13			33		
14			34		
15			35		
16			36		
17			37		
18			38		
19			39		
20			40		

番号: P2 【草本層; 被度 90%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	スズクケ	5	16	マイズルソウ	+	31		
2	スゲSp.	4	17	ヒトソバニンジシ	+	32		
3	シラネウラボシ?	3	18	ツルウメモドキ	+	33		
4	フナ	1	19	スダヤクシ	+	34		
5	ユキザサ	1	20	シダSp.2	+	35		
6	ハイヌカヤ	1	21	ツリバナソウ?	+	36		
7	ヤマアジサイ	1	22			37		
8	カニコウモリ	1	23			38		
9	シダSp.1	1	24			39		
10	ツル?	1	25			40		
11	ヤマモミジ	+	26			41		
12	ヤマカタバミ	+	27			42		
13	ツバキオモト	+	28			43		
14	ヤマフジ	+	29			44		
15	エンレイソウ	+	30			45		

【倒木・伐根 (根株)】

No.	倒木名 (わかれば)	直径 (cm)	長さ (m)	No.	伐根・根株名 (わかれば)	直径 (cm)	高さ (cm)
1				1			
2				2			
3				3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			

番号: P2 【標準地断面模式図】 (左側に高木層~草本層までの階層区分の境界の高さと範囲、階層ごとの優占度等を記載)



【記載に当たっての注意事項】

- 注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺?本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。
- 注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。
①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)。連続層林は、樹冠が最上層を優占している個体のみの樹高・胸高直径を記載。
- 注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。
- 注4: 優占度は階層ごとに、ブラウンプランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。
【ブラウンプランクによる優占度階級】
+ きわめて低いが、まばらに生育する。
1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)
2 個体数はかなり多い。または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)
3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)
4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)
5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)
- 注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(パーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。
- 注6: 亜高木層は、本数も記載する。
- 注7: 高木層または高木層を形成していたと認められる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伐根)を記載。
- 注8: 樹洞は、概略の位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象物とし、長さ最大直径を測定(1m、2cm括約)。
- 注9: 根株は、高さ[胸高]直径を測定(2cm、2cm括約)、それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地にてプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

緑の回廊モニタリング調査 (森林調査野帳)

番号: P3 調査年月日時間: 2003年8月25日 5:45~8:30 天候: 晴れ
 調査者: 金森匠彦, 加藤仁
 【森林調査簿情報】 調査箇所 中部森林管理局 中信森林管理署 61215 林小班
 小谷森林事務所 (通称) 天狗原 国有林 長野県 小谷村
 林相: 針広混交天然林 林齢: 172 年生 該当小班面積: 23.78 ha
 施業方法: 天然生林施業 法的規制等: 上信越高原国立公園(特2), 乙見峠風景林, 土竹底防護備後林, 緑の回廊雨廊戸隠.
 施業履歴 (間伐・択伐の有無, 実施時期, 率等): なし 240m²/ha
 【林分構造区分情報】 林種 ①タイプI [天然林], ②タイプII [人工林], タイプII [天然林] ③タイプIII [混交林]
 林分の発達段階: ①林分成立段階, ②若齢段階, ③成熟段階, ④老齢段階 ⑤非老齢攪乱段階
 【地況情報】 地形: 尾根沿い 地質: 新米子層砂岩
 傾斜: 38° 方位: N45°W 標高: 1550 m
 土壌型: 残積土 水環境: 近くに水場なし

【調査地点を含む周辺地域の概況平面図】 (林内及び林外からの写真の[別紙]添付と撮影位置も記載)

8/23にカメラ再設置
8/28時には盗難
72網あり
キノコ採りか?
乙見峠
峰越林道
妙高小谷線
登山道

【大・中の攪乱 (気象害, 病虫害, 伐採など) を受けた時期とその大きさ (強さ), 動物のフィールドサイン, 餌木の豊凶状況などのコメント】
 ・イナズナにはケモノ道か, キノコ採りが多かった。餌木もみられる。

66

番号: P3 調査プロット面積: 30 m x 15 m = 450 m² 群落名: ツナミズナラ林
 林相: 針広混交天然林 他樹種との混交割合:
 【高木層; 被度 65%, 優占度 4】

No.	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	ミズナラ	26	12	
2	〃	38	13	風のため樹形が変形している。
3	〃	47	12	} 三股, この2本は折れ枯れている。
4	〃	33	—	
5	〃	32	—	
6	〃	45	18	
7	〃	41	16	
8	〃	53	17	
9	〃	28	12	
10	〃	43	15	
11	〃	49	13	
12	ツナ	43	16	
13	コメツカ	50	17	
14	ゴヨウマツ	65	20	
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P3 【亜高木層; 被度 20%, 優占度 2】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1	ミズナラ	5	16		
2	ミズメ	1	17		
3			18		
4			19		
5			20		
6			21		
7			22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層; 被度 90%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ホツツジ	3	21	ユキクニミツバツツジ	+
2	ムシカリ	2	22	コヨウラクツツジ	+
3	ツツジ sp-1	2	23	アズキナシ	+
4	ヤマウルシ	1	24	コバノガマズミ	+
5	アオダモ	1	25		
6	ナナカマド	1	26		
7	ヤマアジサイ	1	27		
8	シナノキ	1	28		
9	ガマズミ	1	29		
10	リョウブ	1	30		
11	ガラサドウダン	1	31		
12	ミズナラ	+	32		
13	コメツガ	+	33		
14	ネズコ	+	34		
15	カクミノスノキ	+	35		
16	サワフタギ	+	36		
17	フナ	+	37		
18	ヤマモミジ	+	38		
19	コハウチワカエデ	+	39		
20	アオハダ	+	40		

番号: P3 【草本層; 被度 95%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	カニコウモリ	4	16	ミツバアケビ	+	31		
2	チシマザサ	3	17	ベニドウダン	+	32		
3	イワガラミ	3	18	ツバメオモト	+	33		
4	スゲ sp.	2	19	ヒカゲノカズラ	+	34		
5	ヤマウルシ	1	20	ホンバトウゲシバ	+	35		
6	カクミノスノキ	1	21	シシガシラ	+	36		
7	ツツジ sp 1	1	22	コバノカナワラビ	+	37		
8	ミズナラ	+	23	イヌワラビ	+	38		
9	シナノキ	+	24	タケシマラン	+	39		
10	ナナカマド	+	25	アキノキリンソウ	+	40		
11	コシアゲラ	+	26	シダ sp. 1	+	41		
12	ヤマモミジ	+	27			42		
13	コミネカエデ	+	28			43		
14	ムシカリ	+	29			44		
15	アカミノイヌツゲ	+	30			45		

【倒木・伐根 (根株)】

No.	倒木名 (わかれば)	直径 (cm)	長さ (m)	No.	伐根・根株名 (わかれば)	直径 (cm)	高さ (cm)
1	ミズナラ	40	10	1	不明 地際	40	100
2				2			
3				3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			



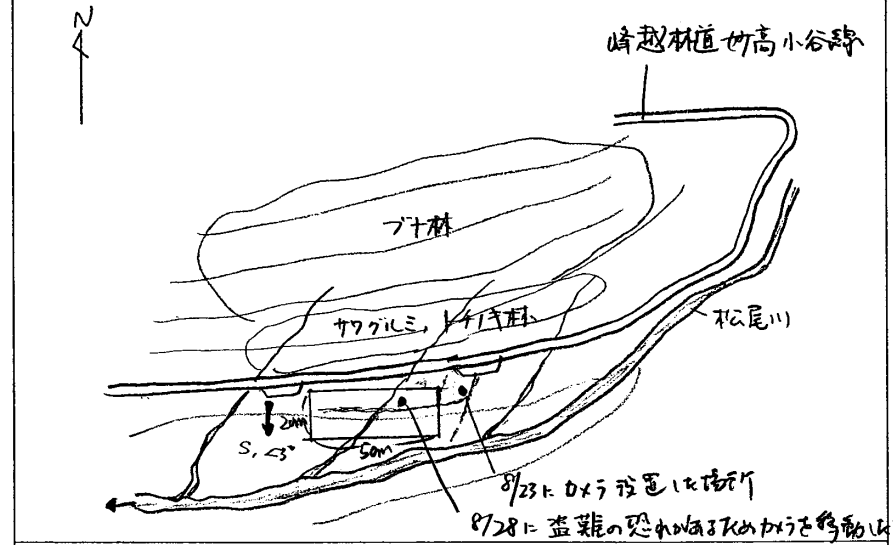
【記載に当たっての注意事項】

- 注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺2本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。
- 注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。
①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)。連続層林は、樹冠が最上層を優占している個体のみを樹高・胸高直径を記載。
- 注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。
- 注4: 優占度は階層ごとに、ブラウン・プランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。
【ブラウン・プランクによる優占度階級】
+ きわめて低いが、まばらに生育する。
1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)
2 個体数はかなり多い。または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)
3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)
4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)
5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)
- 注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(パーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。
- 注6: 亜高木層は、本数も記載する。
- 注7: 高木層または高木層を形成していたと認められる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伏根)を記載。
- 注8: 樹洞は、概略的位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象木とし、長さ・最大直径を測定(1m、2cm括約)。
- 注9: 根株は、高さ・胸高直径を測定(2cm、2cm括約)。それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地でプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

緑の回廊モニタリング調査(森林調査野帳)

番号: P4	調査年月日時間: 2003年8月25日 9:40~12:40	天候: 晴れ
調査者: 金森匡彦、山本照光、加藤仁		
【森林調査簿情報】調査箇所	中部森林管理局 中宿森林管理署	6113 林小班
小谷森林事務所(通称)	天狗原 国有林	長野県 小谷村
林相: 広葉樹天然林	林齢: 172年生	該当小班面積: 41.84 ha
施業方法: 天然生林施業 法的規制等: 上信越高原国立公園(特2)、土所係出防備保安林、乙見峠風景林、緑の回廊雨飾戸隠。		
施業履歴(間伐・択伐の有無、実施時期、率等):	Tなし	230m ² /ha
【林分構造区分情報】林種: ①タイプI[天然林] ②タイプII[人工林]、タイプII[天然林] ③タイプIII[混交林]		
林分の発達段階: ①林分成立段階、②若齢段階、③成熟段階、④老齢段階、⑤非老齢攪乱段階		
【地況情報】地形:	沢沿いの溪畔林	地質: 新第三紀厚砂岩
傾斜: 3°(沢に向て)	方位: S	標高: 1150 m
土壌型: BE型	湿潤	水環境: 沢沿いの溪畔林

【調査地点を含む周辺地域の概況平面図】(林内及び林外からの写真の[別紙]添付と撮影位置も記載)



【大・中の根乱(気象害、病虫害、伐採など)を受けた時期とその大きさ(強さ)、動物のフィールドサイン、倒木の豊凶状況などのコメント】

・後流釣客が入り始め、小道ができています。

番号: P4 調査プロット面積: 20m×50m=1000㎡ 群落名: トチ-サワグルミ林
 林相: 広葉樹天然林 他樹種との混交割合:

【高木層: 被度 70%, 優占度 4】

No.	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	ホオノキ	34	18	同株
2	〃	35	18	
3	ヤナギ sp.1	25	16	
4	〃 sp.1	32	22	
5	〃 sp.2	47	22	
6	トチノキ	90	20	
7	サワグルミ	60	25	
8	ブナ	77	25	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P4 【高木層: 被度 30%, 優占度 3】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1	サワグルミ	6	16		
2	ヤナギ sp.1	1	17		
3	〃 sp.2	2	18		
4	ウリハダカエデ	1	19		
5	ウリハダカエデ	1	20		
6			21		
7			22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層: 被度 80%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ギボシ	2	21	ヤマハシキ	+
2	ヤマウルシ	2	22	アケシバ	+
3	ノブドウ	2	23	ケカマツカ	+
4	タニウツギ	2	24	ツリハシバミ	+
5	サルナシ	2	25		
6	ムシカサ(オオカメノキ)	1	26		
7	サワグルミ	1	27		
8	ミズキ	1	28		
9	サワフタギ	1	29		
10	トチノキ	1	30		
11	ツルアジサイ(着生)	1	31		
12	ウリハダカエデ	+	32		
13	ウツミスズクラ	+	33		
14	ブナ	+	34		
15	オオバクロモジ	+	35		
16	ホオノキ	+	36		
17	コマユミ	+	37		
18	イタヤカエデ	+	38		
19	ハリギリ	+	39		
20	ヤマボウシ	+	40		

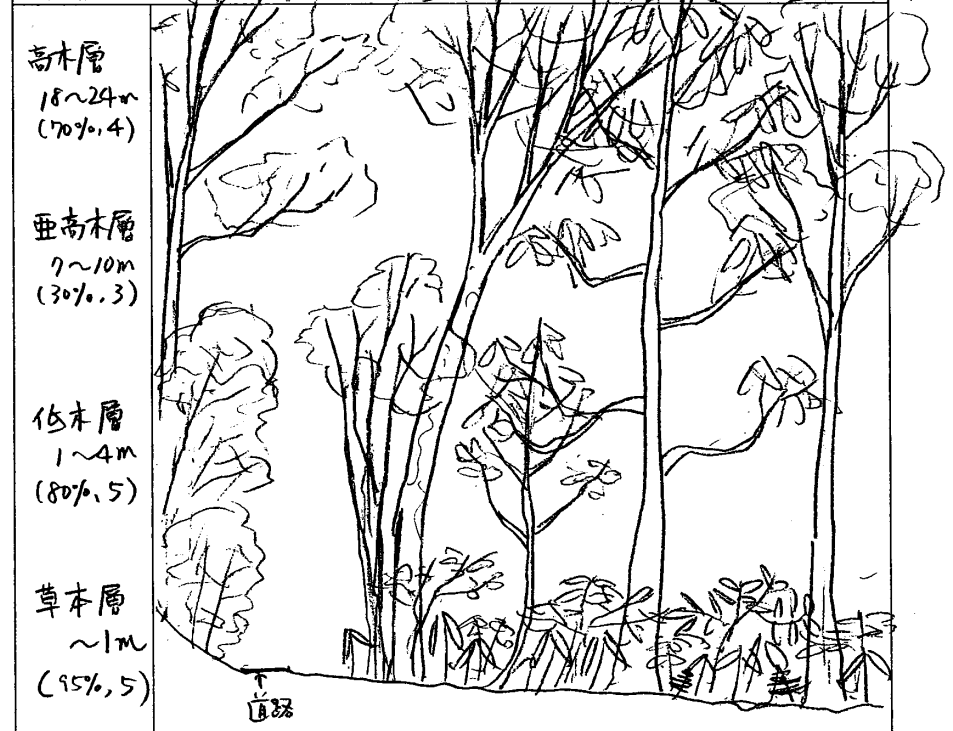
番号: P4 【草本層: 被度 95%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	チシマザサ	4	16	ムシカリ	+	31	カニコウモリ	+
2	スゲ sp.	2	17	ヒメスズリハ	+	32	アマヤヅル	+
3	テンニンソウ	2	18	コシカンアオイ	+	33	クルマムグラ	+
4	ユキシタ科 sp.	2	19	ハウチワカエデ	+	34	ガンクビソウ	+
5	ハイヌカヤ	1	20	ソクバネソウ	+	35	タケシマラン	+
6	ヤマウルシ	1	21	ナツハゼ	+	36	キクバドコロ	+
7	セマアジサイ	1	22	リョウブ	+	37	ジュウモンジンギ	+
8	フキ	1	23	ハリギリ	+	38	リョウモンシダ	+
9	ムカゴイラクサ	1	24	オオバクロモジ	+	39	イノデ sp.	+
10	イワガラミ	1	25	トチノキ	+	40	ユリ科 sp.	+
11	シダ sp.	1	26	ヤクシマソウ	+	41		
12	サワグルミ	1	27	クワノキ	+	42		
13	シラネセンキュウ	1	28	ヒメトオキ	+	43		
14	ナナ	+	29	トチバニンジン	+	44		
15	ウリハダカエデ	+	30	イタドリ	+	45		

【倒木・伐根 (根株)】

No.	倒木名 (わかれば)	直径 (cm)	長さ (m)	No.	伐根・根株名 (わかれば)	直径 (cm)	高さ (cm)
1				1			
2				2			
3				3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			

番号: P4 【標準地断面模式図】 (左側に高木層~草本層までの階層区分の境界の高さと範囲、階層ごとの優占度等を記載)



【記載に当たっての注意事項】

注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺2本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。

注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。

①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)、連続層林は、樹冠が最上層を優占している個体のみの樹高・胸高直径を記載。

注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。

注4: 優占度は階層ごとに、ブラウナープランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。

【ブラウナープランクによる優占度階級】

↑ きわめて低い、まばらに生育する。

1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)

2 個体数はかなり多い。または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)

3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)

4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)

5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)

注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(バーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。

注6: 亜高木層は、本数も記載する。

注7: 高木層または高木層を形成していたと認められる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伐根)を記載。

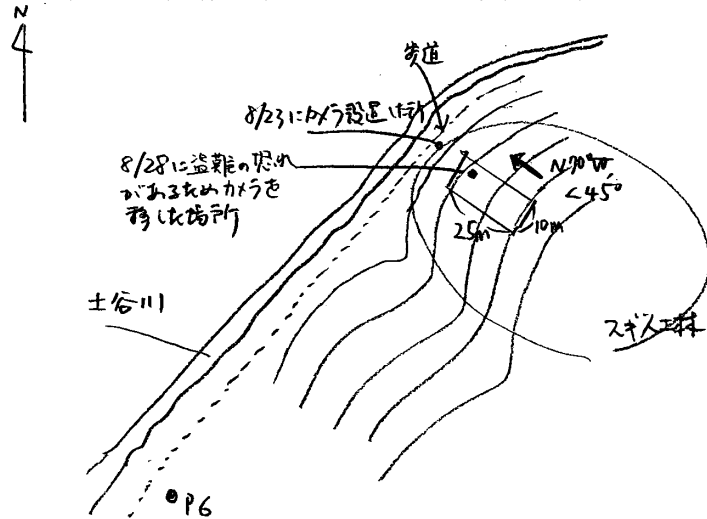
注8: 樹洞は、位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象木とし、長さ最大直径を測定(1m、2cm括約)。

注9: 根株は、高さ(胸高)直径を測定(2cm、2cm括約)。それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地にてプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

緑の回廊モニタリング調査 (森林調査野帳)

番号: P5 調査年月日時: 2003年8月26日 5:40~7:30 天候: 雨
 調査者: 金森匡彦、山本照光、加藤仁
 【森林調査簿情報】 調査箇所: 中部森林管理局 中信森林管理署 6153 林小班
 小谷森林事務所 (通称) 天狗原 国有林 長野県 小谷村
 林相: 針葉樹人工林にシの混交林 林齢: 32 年生 該当小班面積: 14.39 ha
 施業方法: 人工林育成層林施業 法的規制等: 水源かん養保安林、緑の回廊用林、P5
 施業履歴 (間伐・択伐の有無、実施時期、率等): fjl 108m²/ha
 【林分構造区分情報】 林種: ①タイプI [天然林]、②タイプII [人工林]、タイプII [天然林] ④タイプIII [混交林]
 林分の発達段階: ①林分成立段階、②若齢段階、③成熟段階、④老齢段階、⑤非老齢擾乱段階
 【地況情報】 地形: 山腹急斜面下部 地質: 新第三紀層砂岩
 傾斜: 45° 方位: N70°W 標高: 1100 m
 土壌型: BB型 壌土、崩壊土 水環境: 渓流に面した斜面

【調査地点を含む周辺地域の概況平面図】 (林内及び林外からの写真の [別紙] 添付と撮影位置も記載)



【大・中の擾乱 (気象害、病虫害、伐採など) を受けた時期とその大きさ (強さ)、動物のフィールドサイン、餌木の豊凶状況などのコメント】

- ・スギの人工林であるが、広葉樹がかなり侵入しており、混交林状態、
- ・キノコ採りが入ったため、カマの場所を移動した、

番号: P5 調査プロット面積: 10 m × 25 m = 250 m² 群落名: スギ人工林に広葉樹混交
 林相: 針葉樹人工林にシの混交林との混交割合:
 【高木層: 被度 80%, 優占度 5】

No.	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	スギ	28	12	
2	シ	43	16	
3	ク	50	20	
4	ク	24	15	
5	ク	24	13	
6	ク	30	11	
7	ク	20	10	
8	ク	15	12	
9	ブナ	9	10	
10	ク	16	12	
11	ク	12	10	
12	ク	12	10	
13	オオバコダイシ	30	16	
14	ク	13	10	
15	ミズナラ	20	14	
16	トチキ	13	10	
17	ケヤマハンシキ	23	12	
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P5 【亜高木層; 被度 55%, 優占度 4】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1	イタヤカエデ	4	16		
2	オオバボダイジュ	4	17		
3	スギ	2	18		
4	ミズナラ	2	19		
5	マルバマンサク	1	20		
6	ヤマハシキ	1	21		
7	イタヤカエデ(枯木)	1	22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層; 被度 70%, 優占度 4】

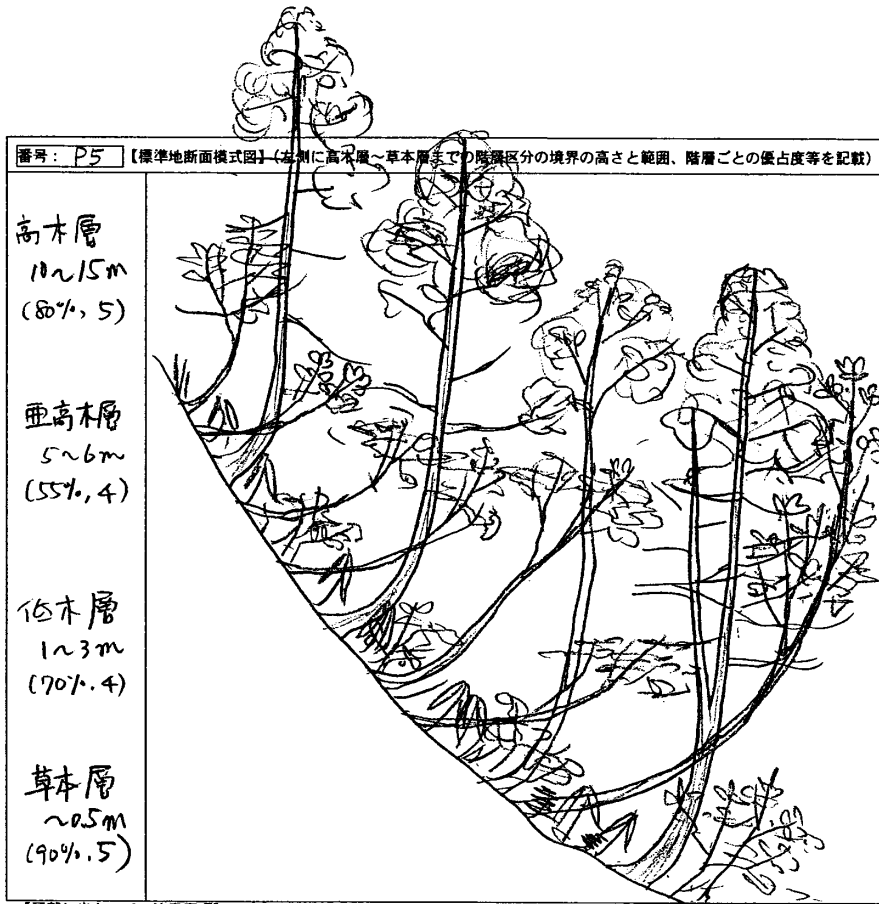
No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	イタヤカエデ	2	21		
2	オオバクワモジ	2	22		
3	トチノキ	1	23		
4	ヤマモミジ	1	24		
5	キブシ	1	25		
6	ツリバナ	1	26		
7	ブナ	+	27		
8	ハウチワカエデ	+	28		
9	ヤブガヤ	+	29		
10	ウワミスズナ	+	30		
11	サワフタギ	+	31		
12	ミヤマハハソ	+	32		
13	ミズキ	+	33		
14	ホオノキ	+	34		
15	ムシカリ	+	35		
16	アオダモ	+	36		
17			37		
18			38		
19			39		
20			40		

番号: P5 【草本層; 被度 90%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	スゲSP	4	16	アオダモ	+	31		
2	ハイヌカヤ	3	17	ツタウルシ	+	32		
3	ヒメアオキ	3	18	フキ	+	33		
4	カニコウモリ	2	19	アサ	+	34		
5	マルバマンサク	1	20	クジャクシダ	+	35		
6	ヤマアジサイ	1	21	リョウメンシダ	+	36		
7	ヒメユズリハ	1	22	イノチ	+	37		
8	オクミジハクマ	1	23	オシダ	+	38		
9	スズク	1	24	トチバネシジ	+	39		
10	シガシラ	1	25	ヤグルマソウ?	+	40		
11	ミズナラ	+	26			41		
12	ヤブガヤ	+	27			42		
13	ブナ	+	28			43		
14	ハウチワカエデ	+	29			44		
15	トチノキ	+	30			45		

【倒木・伐根(根株)】

No.	倒木名(わかれば)	直径(cm)	長さ(m)	No.	伐根・根株名(わかれば)	直径(cm)	高さ(cm)
1	スギ	18	9	1			
2	"	16	7	2			
3	" (折落木)	17	10	3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			



番号: P5 【標準地断面模式図】(左側に高木層～草本層までの階層区分の境界の高さと範囲、階層ごとの優占度等を記載)

高木層
10~15m
(80%, 5)

亜高木層
5~6m
(55%, 4)

低木層
1~3m
(70%, 4)

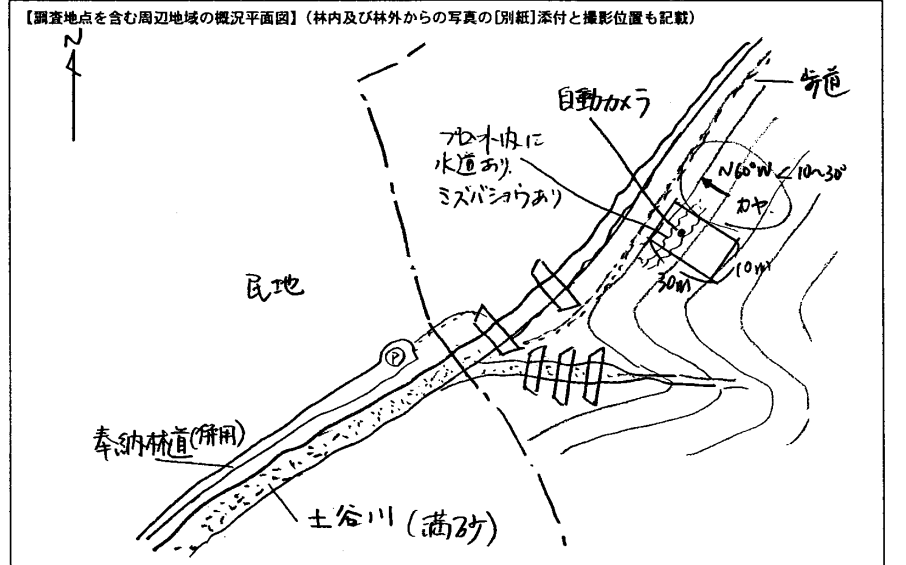
草本層
~0.5m
(90%, 5)

【記載に当たっての注意事項】

- 注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺2本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。
- 注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。
①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)。連続層林は、樹冠が最上層を優占している個体みの樹高・胸高直径を記載。
- 注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。
- 注4: 優占度は階層ごとに、ブラウナープランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。
【ブラウナープランクによる優占度階級】
+ きわめて低いが、まばらに生育する。
1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)
2 個体数はかなり多い、または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)
3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)
4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)
5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)
- 注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(パーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。
- 注6: 亜高木層は、本数も記載する。
- 注7: 高木層または高木層を形成していたと認められる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伐根)を記載。
- 注8: 樹洞は、概略的位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象木とし、長さ最大直径を測定(1m、2cm括約)。
- 注9: 根株は、高さ【胸高】直径を測定(2cm、2cm括約)。それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地にてプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

緑の回廊モニタリング調査(森林調査野帳)

番号: P6	調査年月日時間: 2003年8月26日 8:00~9:00	天候: 雨
調査者: 金森匡彦、山本昭光、加藤仁		
【森林調査簿情報】調査箇所: 中部森林管理局 中信森林管理署 615う 林小班		
小谷森林事務所(通称) 天狗原 国有林 長野県 小谷村		
林相: 針葉樹人工林にLの混交林 林齢: 53年生 該当小班面積: 11.33 ha		
施業方法: 人工林育成単層林施業 法的規制等: 水源かん養保樹林 緑の回廊雨飾・下隠し		
施業履歴(間伐・択伐の有無、実施時期、率等): なし 200m/Ra		
【林分構造区分情報】林種: ①タイプI[天然林]、②タイプII[人工林]、タイプII[天然林] ③タイプIII[混交林]		
林分の発達段階: ①林分成立段階、②若齢段階、③成熟段階、④老齢段階、⑤非老齢攪乱段階		
【地況情報】地形: 山腹下部緩斜面 地質: 新第三紀層砂岩		
傾斜: 10~30°	方位: N60°W	標高: 1000 m
土壌型: BD型、壤土、湿潤。 水環境: 溪流(面)に伴う下部湿地		



【大・中の擾乱(気象害、病虫害、伐採など)を受けた時期とその大きさ(強さ)、動物のフィールドサイン、顕木の豊凶状況などのコメント】

- スギの人工林だが、広葉樹がかかり混交している。
- プロット内に湿地(水直あり)あり、ミスバショウを見られる。

番号: P6 調査プロット面積: 10 m × 30 m = 300 m² 群落名: スギ人工林に広葉樹の混交

林相: 針葉樹人工林にLの混交林 他樹種との混交割合:

【高木層: 被度 75%, 優占度 5】

No.	種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	樹洞木・衰退木・枯死木の有無とその状況 (位置・形状)
1	スギ	28	12	
2	"	39	18	
3	"	45	20	
4	"	37	18	
5	トチノキ	14	10	
6	"	27	16	
7	オオバボダイジュ	27	17	
8	"	36	18	
9	キハダ	22	15	
10	ケショウヤナギ?	29	10	
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

番号: P6 【亜高木層: 被度 40%, 優占度 3】

No.	種名	本数	No.	種名	本数
1	トチノキ	4	16		
2	オオバボダイジュ	3	17		
3	イタヤカエデ	2	18		
4	テンカエデ	2	19		
5	ブナ	1	20		
6	ミズキ	1	21		
7	ヤマブドウ(着生)	1	22		
8			23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		

【低木層: 被度 80%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ハイヌガヤ	3	21		
2	ミヤマハハノ	3	22		
3	オオバボダイジュ	2	23		
4	マルバマンサク	2	24		
5	キズシ	2	25		
6	トチノキ	1	26		
7	ブナ	1	27		
8	ヤマモミジ	1	28		
9	ミズキ	1	29		
10	ウリハダカエデ	1	30		
11	イタヤカエデ	1	31		
12	チャボガヤ	1	32		
13	ツリバナ	1	33		
14	ミズナラ	+	34		
15	ケヤマハンキ	+	35		
16			36		
17			37		
18			38		
19			39		
20			40		

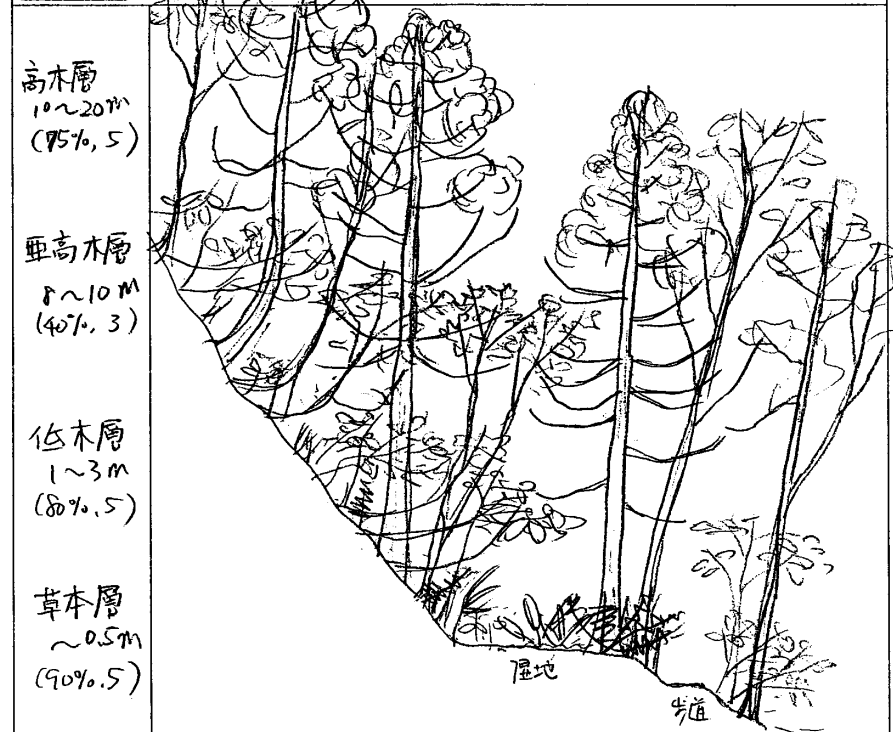
番号: P6 【草本層: 被度 90%, 優占度 5】

No.	種名	優占度	No.	種名	優占度	No.	種名	優占度
1	ムカゴイラクサ	4	16	ホオノキ	+	31		
2	スゲSP	4	17	ウリハダカエデ	+	32		
3	ハイヌガヤ	3	18	クジャクシダ	+	33		
4	シタウルシ	2	19	ヤグルメソウ	+	34		
5	ヒメアオキ	2	20	スギナ	+	35		
6	リョウモンシダ	2	21	コマユミ	+	36		
7	ムンカリ	1	22	ソリフネソウ	+	37		
8	マルバマンサク	1	23	コタエワタリ	+	38		
9	ミズバショウ	1	24	ハンゴンソウ?	+	39		
10	オシダ	1	25			40		
11	ジュウモンシダ	1	26			41		
12	クルマムグラ	1	27			42		
13	ミズノバ	1	28			43		
14	トチノキ	+	29			44		
15	オオバクロモジ	+	30			45		

【倒木・伐根 (根株)】

No.	倒木名 (わかれば)	直径 (cm)	長さ (m)	No.	伐根・根株名 (わかれば)	直径 (cm)	高さ (cm)
1	スギ	15	7	1			
2				2			
3				3			
4				4			
5				5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			
18				18			
19				19			
20				20			

番号: P6 【標準地断面横試図】 (注1) 高木層~草本層までの階層区分の境界の高さと範囲、階層ごとの優占度等を記載)



【記載に当たっての注意事項】

- 注1: プロットの設定は、幅10m、長さは高木層の樹高の約2倍が標準。例えば樹高20mならば長さは40m、25mならば50m。今後場所の特定ができるように、基点に標識杭(調査年月日・プロット番号・林小班番号・調査名等を記入)と標識テープをつける。調査は方形の長辺2本と真ん中に1本、50mスチール巻尺を張ると便利である。
- 注2: 階層区分は、以下のとおり。階層ごとに種名等を記載。
 ①高木層、②亜高木層、③低木層、④草本層、⑤連続層(高木層から低木層まで区分なくつながっている林分)。連続層は、樹冠が最上層を優占している個体のみの樹高・胸高直径を記載。
- 注3: 林分成立段階は、草本層、または低木層である。
- 注4: 優占度は階層ごとに、ブラウンプランクの方法で被度%と優占度を記載する。ただし低木層と草本層は、優占度1以上の種を基本に優占度階級を記載する。
 【ブラウンプランクによる優占度階級】
 + きわめて低いが、まばらに生育する。
 1 個体数が多いが、きわめて低い被度、またはかなりまばらで、高い被度で生育する。(被度1~10%)
 2 個体数はかなり多い、または少なくとも調査面積の1/10から1/4を被っている。(# 10~25%)
 3 調査面積の1/4から1/2以上を被っている。(# 25~50%)
 4 調査面積の1/2から3/4以上を被っている。(# 50~75%)
 5 調査面積の3/4以上を被っている。(# 75~100%)
- 注5: 高木層のみ、胸高直径(2cm括約、地上1.2~1.3m間における平均直径)、樹高(1m括約)を毎木調査する。樹高は目測でよいが、目測の精度をチェックするために測高器(パーテックスなど)で数本測ることが望ましい。胸高直径は輪尺または直径巻尺で測定する。
- 注6: 亜高木層は、本数も記載する。
- 注7: 高木層または高木層を形成していたと認められる樹木に絞って、樹洞木・衰退木・倒木・根株(伐根)を記載。
- 注8: 樹洞は、概略の位置(地際、樹上など)と大きさを記載。倒木は、プロット内に一部でもあれば測定対象木とし、長さ・最大直径を測定(1m、2cm括約)。
- 注9: 根株は、高さ・胸高直径を測定(2cm、2cm括約)。それより低い場合は、一番高い所で測定。小径衰退木や人工林の間伐木の根株の測定は不要。ただし、施業履歴で間伐時期や間伐率が調べられない場合は、現地にてプロット内の根株本数と年輪数(数本)を測定する。

整理番号 P1, P2

直接観察/痕跡調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 山本照光

調査日時: 2003年8月23日 8:00~2003年8月24日 18:00

天候 晴々

調査箇所名 雨飾山 登山道 調査距離 _____ m

<調査に含まれる林分>

林分1	森林タイプ	天然林	発達段階	老齢	林齢	年	距離	m
林分2	森林タイプ	"	発達段階	林分2	林齢	年	距離	m
林分3	森林タイプ	河川沿	発達段階		林齢	年	距離	m
林分4	森林タイプ	岩原地	発達段階		林齢	年	距離	m

<現地調査>

地点番号	林班番号		林分番号	確認種名	確認方法	確認数	備考
	林班	小班					
1	607	ほ	3	イナズナ	葉	1	8/23 8:31 土手
2	"	"	1	カハヒ	目視	1	8/23 8:36 土手
3	"	"	1	イナズナ	葉	1	8/24 5:58
4	"	"	1	"	"	1	8/24 6:25 P1付
5	"	"	2	"	"	1	8/24 7:07 P2付
6	"	"	1	ヤマカガエ	目視	1	8/24 10:04
7	"	"	1	トカゲ	"	1	8/24
8	"	"	1	マムシ	"	1	8/24
9	"	"	1	シマヘビ	"	1	8/24
10	"	イ	4	イソヒバ	"	1	8/24 15:38 山頂付近
11							(キャンプ場)入口付近
12	民有地			マムシ	目視	1	8/27 鑛池(雨飾山)
13	"			シムブリ	"	1	8/27 鑛池入口路上
14							
15							

整理番号 P3, P4

直接観察/痕跡調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 山本照光

調査日時: 2003年8月5日 5:00~2003年8月25日 9:00

天候 晴々

調査箇所名 妙高小谷線 調査距離 _____ m

<調査に含まれる林分>

林分1	森林タイプ	天然林	発達段階	老齢	林齢	年	距離	m
林分2	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m
林分3	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m
林分4	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m

<現地調査>

地点番号	林班番号		林分番号	確認種名	確認方法	確認数	備考
	林班	小班					
1	611	ほ	1	シマヘビ	目視	1	8/25 林道上
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

整理番号 P5, P6

直接観察/痕跡調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 山本照光

調査日時: 2003年8月23日 15:50~2003年8月23日 17:30 天候 雨

調査箇所名 _____ 調査距離 _____ m

<調査に含まれる林分>

林分1	森林タイプ	混交林	発達段階	成熟	林齢	年	距離	m
林分2	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m
林分3	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m
林分4	森林タイプ		発達段階		林齢	年	距離	m

<現地調査>

地点番号	林班番号		林分番号	確認種名	確認方法	確認数	備考
	林班	小班					
1	民有地			イナズナ	葉	1	8/23 15:55, 奉納初詣地点
2	615	う	1	"	"	1	8/23 17:25, 歩道上
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

市町村名	標準日出時刻 (気象台名)	観察半径	調査年月日	天候 (□に印を付ける)	風の状況
小谷村	()	25 m	2003年8月24日	<input type="checkbox"/> 快晴 <input checked="" type="checkbox"/> 晴 <input type="checkbox"/> 薄曇り <input type="checkbox"/> 曇り <input type="checkbox"/> 本曇り <input type="checkbox"/> 雨 <input type="checkbox"/> にわか雨 <input type="checkbox"/> 驟雨 <input type="checkbox"/> 雪 <input type="checkbox"/> にわか雪	<input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 弱 <input type="checkbox"/> 強

- ◎ 調査地区 607林班 雨飾山登山道
- ◎ 調査林分名 P1, P2
- ◎ この林分の調査時間 5:00 ~ 7:23
- ◎ 調査者名 山本

プロットの情報			No	種名	出現環境	個体数	確認内容	備考
プロット No	時刻	プロットの位置						
1	5:00	林分内・林相境	1	ホオシロ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	↑キャンプ場近く
2	:	林分内・林相境	2	ウツクス	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
1	5:02	林分内・林相境	3	イワツバメ	水上・水辺・草本・高木・上	20+	F.C	高草
2	5:07	林分内・林相境	4	ホオシロ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
2	5:11	林分内・林相境	5	"	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
3	5:14	林分内・林相境	6	"	水上・水辺・草本・高木・上	2	C	↑木道
3	5:16	林分内・林相境	7	-	水上・水辺・草本・高木・上			
4	5:19	林分内・林相境	7	ウツクス	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
4	5:21	林分内・林相境	8	ホオシロ	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
5	5:26	林分内・林相境	9	キセキレイ	水上・水辺・草本・高木・上	1	F.C	入海!
5	5:28	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
6	5:31	林分内・林相境	10	ウツクス	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	↑登り口
6	5:33	林分内・林相境	11	コガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
7	5:37	林分内・林相境	12	ヒガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
7	5:39	林分内・林相境	13	サンショウクイ	水上・水辺・草本・高木・上	8	F.C	
8	5:43	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
8	5:45	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
9	5:50	林分内・林相境	14	ヒガラ	水上・水辺・草本・高木・上	5	C	
9	5:52	林分内・林相境	15	コガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
10	5:56	林分内・林相境	16	ヒガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	
7	:	林分内・林相境	17	ゴシキウカラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
10	5:58	林分内・林相境	18	コガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
11	6:02	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
11	6:04	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
12	6:07	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
12	6:09	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
13	6:13	林分内・林相境	19	イワツバメ	水上・水辺・草本・高木・上	10	F.C	高草
13	6:15	林分内・林相境	-	-	水上・水辺・草本・高木・上			
14	6:23	林分内・林相境	20	サンショウクイ	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
14	6:25	林分内・林相境	21	ウツクス	水上・水辺・草本・高木・上	1	C	
15	6:38	林分内・林相境	22	ヒガラ	水上・水辺・草本・高木・上	2	S	
:	:	林分内・林相境	23	コガラ	水上・水辺・草本・高木・上	1	S	

《使用記号》 ♂:雄 ♀:雌 ad:成鳥 juv:若鳥 V:目撃 F:飛翔 S:囀り C:地鳴き

市町村名 小谷村	標準日出時刻 ()	観察半径 25 m	調査年月日 2003年8月24日	天候 (□に印を付ける) □快晴 □晴 □薄曇り □曇り □雨 □雪 □本曇り □霧雨 □にわか雨 □にわか雪	風の状況 □無し □弱 □強
-------------	---------------	--------------	---------------------	---	-------------------

- ◎ 調査地区 607林班 雨飾山登山道
- ◎ この林分の調査時間 5:00 ~ 7:23
- ◎ 調査林分名 P1, P2
- ◎ 調査者名 山本

プロットの情報			No	種名	出現環境	個体数	確認内容	備考
アットNo	時刻	アットの位置						
15	6:40	林分内・林縁・林相境	24	サメビシ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	✓	
16	6:48	林分内・林縁・林相境	25	アカゲラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
17	:	林分内・林縁・林相境	26	アカハラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1 juv	✓	
18	:	林分内・林縁・林相境	27	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
19	:	林分内・林縁・林相境	28	ゴシキウカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
20	6:50	林分内・林縁・林相境	29	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
21	6:55	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
22	6:57	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
23	7:00	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
24	7:02	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
25	7:08	林分内・林縁・林相境	30	サンショウクイ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	F.C	
26	7:10	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
27	7:14	林分内・林縁・林相境	31	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
28	7:16	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
29	7:21	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
30	7:23	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
31	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
32	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
33	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
34	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
35	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
36	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
37	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
38	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
39	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
40	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
41	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
42	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
43	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
44	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
45	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
46	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
47	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
48	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
49	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
50	:	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	

《使用記号》 ♂:雄 ♀:雌 ad:成鳥 juv:若鳥 V:目撃 F:飛翔 S:囀り C:地鳴き

市町村名 小谷村	標準日出時刻 ()	観察半径 25 m	調査年月日 2003年8月25日	天候 (□に印を付ける) □快晴 □晴 □薄曇り □曇り □雨 □雪 □本曇り □霧雨 □にわか雨 □にわか雪	風の状況 □無し □弱 □強
-------------	---------------	--------------	---------------------	---	-------------------

- ◎ 調査地区 612林班 乙見峠
- ◎ この林分の調査時間 5:08 ~ 6:44
- ◎ 調査林分名 P3
- ◎ 調査者名 山本

プロットの情報			No	種名	出現環境	個体数	確認内容	備考
アットNo	時刻	アットの位置						
1	5:08	林分内(林縁)・林相境	1	サンショウクイ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	F.C	
2	5:10	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
3	5:15	林分内(林縁)・林相境	2	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
4	5:17	林分内・林縁・林相境	3	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
5	5:21	林分内(林縁)・林相境	4	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
6	5:23	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
7	5:28	林分内(林縁)・林相境	5	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
8	5:30	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
9	5:34	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
10	5:36	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
11	5:40	林分内・林縁・林相境	6	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	S	
12	5:42	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
13	5:47	林分内(林縁)・林相境	7	ゴシキウカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
14	5:49	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
15	5:57	林分内・林縁・林相境	8	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	V.C	(卵)ハダナカ
16	:	林分内・林縁・林相境	9	サンショウクイ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	F.C	
17	5:59	林分内・林縁・林相境	10	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
18	6:04	林分内・林縁・林相境	11	ゴシキウカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
19	6:06	林分内・林縁・林相境	12	アカゲラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	V.C	
20	6:10	林分内・林縁・林相境	13	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	C	
21	6:12	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	20.ホシガ
22	6:19	林分内・林縁・林相境	14	ウソ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2(♀)	V.C	
23	:	林分内・林縁・林相境	15	ウソ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	C	
24	6:21	林分内・林縁・林相境	16	イカル	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	C	
25	6:25	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
26	6:27	林分内・林縁・林相境	-	-	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	-	-	
27	6:30	林分内・林縁・林相境	17	オオアカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	V.D	
28	:	林分内・林縁・林相境	18	ゴシキウカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	1	V.C	
29	6:32	林分内・林縁・林相境	19	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	V.C	
30	6:37	林分内・林縁・林相境	20	コケラ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	2	V.C	
31	:	林分内・林縁・林相境	21	ヤマカ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	3	V.C	
32	:	林分内・林縁・林相境	22	ヒカゲ	水上・水辺・草本・低木・高木・上空	5	V.C	

《使用記号》 ♂:雄 ♀:雌 ad:成鳥 juv:若鳥 V:目撃 F:飛翔 S:囀り C:地鳴き

78

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦

装置設置日: 2003年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 8月 23日 10:00

フィルム回収日時: 2003年 8月 28日 11:34

調査地: 天狗原 国有林 607林班 ほ小班 標高: 1350m

緯度: N36度53分33.2秒 経度: E137度58分25.4秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172年

〈現地調査〉 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	10:00	快晴	1	有 (無)	作業中1枚, エサおこ, ケノ通し
8/28	11:34	小雨	23	有 (無)	作業中3枚, エサおこ
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

〈写真解析〉 解析者氏名: 加藤仁

ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種
0											
1	8/23	10:13	作業	13	"	8:42	X(日光)	25			
2	"	13:05	X(不明)	14	"	19:44	ネズミ	26			
3	"	15:48	X	15	"	19:57	ネズミ	27			
4	"	20:27	ネズミ	16	"	22:31	X	28			
5	"	20:55	X	17	8/25	6:15	X(日光)	29			
6	"	21:14	ネズミ	18	"	13:28	X(日光)	30			
7	"	21:18	X	19	"	13:28	X(不明)	31			
8	"	22:36	ネズミ	20	8/26	0:11	ネズミ	32			
9	"	23:47	X(日光)	21	8/28	11:29	作業	33			
10	8/24	0:15	ネズミ	22	"	11:29	作業	34			
11	"	2:33	ネズミ	23				35			
12	"	3:35	ネズミ	24				36			
								E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦、小山島友和

装置設置日: 2003年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 8月 28日 11:40

フィルム回収日時: 2003年 10月 2日 10:20

調査地: 天狗原 国有林 607林班 ほ小班 標高: 1350m

緯度: N36度53分33.2秒 経度: E137度58分25.4秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172年

〈現地調査〉 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/28	11:40	曇	1	有 (無)	作業中1枚
9/11	13:06	曇	14	有 (無)	作業中1枚
10/2	10:20	雨	28	有 (無)	フィルム交換
				有 無	
				有 無	
				有 無	

〈写真解析〉 解析者氏名: 加藤仁

ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種
0											
1	8/28	11:52	作業	13	9/11	13:09	作業	25	9/28	4:39	ニホシクサ
2	8/29	8:07	X	14	"	19:30	コウモリ	26	"	18:03	X
3	"	8:41	X	15	9/14	8:02	X	27	10/2	10:25	作業
4	8/30	4:29	X	16	9/17	4:53	生物?	28	"	10:27	"
5	9/2	12:34	X	17	9/18	12:00	人間	29			
6	"	12:37	X	18	"	14:34	X	30			
7	"	12:37	X(光?)	19	9/19	6:39	昆虫?	31			
8	"	12:40	X(光?)	20	"	17:30	昆虫?	32			
9	"	12:42	X(光?)	21	9/21	18:15	X	33			
10	9/9	1:15	X	22	"	18:22	X	34			
11	"	15:18	X(光?)	23	?	?	X(日光)	35			
12	9/9	16:49	X	24	9/27	18:03	X	36			
								37E38			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小嶋友和, 新塚茂雄

装置設置日: 2003年8月23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年10月2日 10:20

フィルム回収日時: 2003年10月27日 10:00

調査地: 天狗原 国有林 607林班 13 小班 標高: 1350m

緯度: N36度53分33.2秒 経度: E137度58分25.4秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
10/2	10:20	雨	1	有 (無)	作業で1枚
10/27	10:00	晴	表上)	有 (無)	カメラ撤去
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種
0											
1	10/2	10:33	作業	13	"	9:22	X(日光)	25	10/24	4:00	ホトギツネ
2	10/9	4:07	ニホンウグサ	14	"	10:28	X(日光)	26	"	4:00	ホトギツネ
3	"	11:12	X(日光)	15	"	11:37	X(日光)	27	"	4:00	X
4	10/15	11:17	X(日光)	16	10/19	9:14	X(日光)	28	"	4:00	X
5	10/17	11:09	X(日光)	17	"	9:37	X(日光)	29	"	4:00	X
6	"	11:42	X(日光)	18	"	10:21	人間	30	"	4:01	X
7	10/18	2:07	ニホンウグサ	19	"	10:25	人間	31	"	4:01	X
8	"	2:10	ニホンウグサ	20	"	10:37	人間	32	"	4:01	X
9	"	2:16	ニホンウグサ	21	10/20	9:52	X(日光)	33	"	4:01	X
10	"	2:24	ニホンウグサ	22	"	9:58	X(日光)	34	"	4:01	X
11	"	?	X(日光)	23	"	11:12	X(日光)	35	"	4:01	X
12	"	9:?	X(日光)	24	"	11:22	X(日光)	36	"	4:01	X
								E			X(日光)

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁, 山本照光, 金森匡彦, 小嶋友和

装置設置日: 2003年8月23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年8月23日 11:00

フィルム回収日時: 2003年10月2日 10:05

調査地: 天狗原 国有林 607林班 13 小班 標高: 1460m

緯度: N36度53分41.8秒 経度: E137度58分12.4秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 林分成立 林齢: 15~30年?

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	11:00	晴	3	有 (無)	作業で3枚
8/28	12:15	曇	6	有 (無)	作業で1枚
9/11	13:33	曇	10	有 (無)	作業で1枚
10/2	10:05	雨	21	有 (無)	フィルム交換
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種	ネガNo	月日	時刻	確認種
0											
1	(8/23)		作業	13	"	23:50	X	25			
2	"		"	14	9/18	12:19	作業	26			
3	"		"	15	"	12:19	"	27			
4	"		"	16	9/21	2:06	生物?	28			
5	?	?	X	17	9/26	18:06	X	29			
6	(8/28)		作業	18	"	18:07	X	30			
7			X	19	9/29	17:58	X	31			
8			X	20	10/2	10:01	作業	32			
9	9/11	13:38	作業	21				33			
10	9/12	17:52	茶花?	22				34			
11	"	23:30	生物?	23				35			
12	"	23:37	生物?	24				36			
								E			X(日光)

自動撮影調査 記録用紙

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小嶋友和, 寺澤 茂雄

装置設置日: 2003年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 10月 2日 10:05

フィルム回収日時: 2003年 10月 27日 10:15

調査地: 天狗原 国有林 607林班 12 小班 標高: 1460m

緯度: N36度 53分41.8秒 経度: E137度 58分17.4秒

森林タイプ: 天然林 人工林・混交林 発達段階: 成熟林 林齢: 150-30年?

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁, 山本照光, 金森匡彦

装置設置日: 03年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 03年 8月 23日 14:00

フィルム回収日時: 03年 8月 28日 14:00

調査地: 天狗原 国有林 612 林班 11 小班 標高: 1550m

緯度: N36度 52分04.5秒 経度: E138度 01分19.6秒

森林タイプ: 天然林 人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
10/2	10:05	晴	1	有 (無)	作業2枚
10/27	10:15	晴	13	有 (無)	カメラ撤去
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	14:00	晴		有 (無)	登山道付近, エサホく
8/28	14:00	小雨		有 無	盗難(キノコ採りか?)
				有 無	↳場所を少し移動す。
				有 無	
				有 無	
				有 無	

83

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1			X	13	10/27	10:13	作業	25			
2	10/2	10:12	作業	14				26			
3	10/7	20:28	コウモリ	15				27			
4	10/9	12:29	X	16				28			
5	10/12	10:31	人間	17				29			
6	10/15	12:29	X	18				30			
7	10/19	6:16	シロハラ	19				31			
8	10/23	7:15	X	20				32			
9	10/24	9:16	X(雪)	21				33			
10	?	?	X(〃)	22				34			
11	10/25	?	人間?	23				35			
12	10/26	02:20	X	24				36			
								E			

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1				13				25			
2				14				26			
3				15				27			
4				16				28			
5				17				29			
6				18				30			
7				19				31			
8				20				32			
9				21				33			
10				22				34			
11				23				35			
12				24				36			
								E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦、寺澤茂雄

装置設置日: 03年 8月28日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 03年 8月28日 14:30

フィルム回収日時: 03年 9月11日 14:50

調査地: 天狗原 国有林 612 林班 15 小班 標高: 1550 m

緯度: N36度 52分 04.5秒 経度: E138度 01分 19.6秒

森林タイプ: (天然林)・人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/28	14:30	小雨	1	有 (無)	竹ノ道(しき所(キノ採り道)), エカ
9/11	14:50	小雨		有 無	再盗難(キノ採りか?)
				有 無	↳ 中止する
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0							
1				13			25
2				14			26
3				15			27
4				16			28
5				17			29
6				18			30
7				19			31
8				20			32
9				21			33
10				22			34
11				23			35
12				24			36
				E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦、小島友和

装置設置日: 2003年 8月23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 8月23日 15:00

フィルム回収日時: 2003年 10月2日 14:20

調査地: 天狗原 国有林 611 林班 3 小班 標高: 1150m

緯度: N36度 52分 04.5秒 経度: E138度 01分 19.6秒

森林タイプ: (天然林)・人工林・混交林 発達段階: 成熟 林齢: 172年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	15:00	晴	1	有 (無)	作業2枚
8/28	15:00	雨	6	有 (無)	設置場所(キノ採り), 作業2枚
9/11	15:50	雨	17	有 (無)	作業2枚
10/2	14:20	雨	28	有 (無)	フィルム交換
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0							
1	(8/23)		作業	13	?	?	X
2	?	?	ウズラ	14	?	?	X
3	?	?	ニホンヤ	15	?	?	X
4	(8/28)	?	作業	16	?	?	X
5	"	?	"	17	9/11	15:55	作業
6	"	?	"	18	9/13	22:37	X
7	"	?	"	19	9/18	20:21	X
8	?	?	ネズミ	20	9/19	18:26	生体?
9	"	?	ネズミ	21	9/28	2:15	X
10	"	?	ネズミ	22	"	9:59	昆虫?
11	?	?	ニホンヤ	23	9/30	13:01	人間
12	?	?	ニホンヤ	24	10/1	21:51	X
				E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小嶋友和, 寺澤茂雄

装置設置日: 2003年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 10月 2日 14:20

フィルム回収日時: 2003年 10月 27日 11:25

調査地: 天狗原 国有林 611 林班 3 小班 標高: 1150 m

緯度: N36 度 52分 04.5秒 経度: E138 度 01分 19.6秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 成熟・老齢 林齢: 172年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
10/2	14:20	雨	1	有 (無)	作業2枚
10/27	11:25	晴	21	有 (無)	カメラ撤去
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁 日付設定ミス

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1	10/2	?	作業	13	10/19	?	人間	25			
2	"	?	"	14	10/22	?	人間	26			
3	10/5	?	生分?	15	10/24	?	X(目)	27			
4	"	?	X	16	"	?	X(")	28			
5	"	?	ニホンウグス?	17	"	?	X(")	29			
6	10/10	?	X	18	"	?	X(")	30			
7	10/11	?	人間	19	10/25	?	人間	31			
8	10/12	?	ニホンウグス	20	10/27	?	作業	32			
9	10/17	?	X	21				33			
10	"	?	X	22				34			
11	10/18	?	人間	23				35			
12	"	?	人間	24				36			
								E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁, 山本照光, 金森匡彦

装置設置日: 03年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 03年 8月 23日 16:40

フィルム回収日時: 03年 8月 28日 16:40

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 3 小班 標高: 1100 m

緯度: N36 度 49分 45.0秒 経度: E137 度 58分 42.5秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 若齢 林齢: 32年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	16:40	曇	1	有 (無)	作業, エキおく
8/28	16:30	雨	15	有 (無)	ニホンウグスが採り可能種ありため、場所を少し移動する。
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1	8/23	16:46	作業	13	"	16:33	作業	25			
2	8/24	19:16	X	14	"	16:37	作業	26			
3	"	19:39	X	15				27			
4	8/25	7:11	X	16				28			
5	8/26	1:05	ネズミ	17				29			
6	"	6:49	調査	18				30			
7	"	?	調査	19				31			
8	8/27	2:30	ホオビシ	20				32			
9	"	12:16	ホオビシ	21				33			
10	"	18:13	ホオビシ	22				34			
11	"	18:42	ホオビシ	23				35			
12	8/28	4:40	ホオビシ	24				36			
								E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦、寺澤茂雄

装置設置日: 03年 8月 28日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 03年 8月 28日 16:40

フィルム回収日時: 03年 9月 11日 10:07

調査地: 天狗原 国有林 615林班 3 小班 標高: 1100m

緯度: N36 度 49 分 45.0秒 経度: E137 度 58 分 42.5秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 若齢 林齢: 32 年

＜現地調査＞ 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/28	16:40	雨	1	有 <u>無</u>	作業 エサおく
9/11	10:07	曇	15	有 <u>無</u>	作業
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

＜写真解析＞ 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0							
1	8/28	16:49	作業	13	"	10:10	作業
2	8/29	11:13	X (日光)	14			
3	"	11:40	X	15			
4	8/30	14:05	昆虫か?	16			
5	"	14:34	X	17			
6	"	23:32	ネズミ	18			
7	8/31	19:17	X	19			
8	?	?:22	X 不明	20			
9	9/6	9:40	昆虫か?	21			
10	9/7	2:49	コウモリか?	22			
11	"	20:16	コウモリか?	23			
12	9/11	10:04	作業	24			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小山島友和、寺澤茂雄

装置設置日: 2003年 8月 28日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 9月 11日 10:35

フィルム回収日時: 2003年 10月 27日 13:10

調査地: 天狗原 国有林 615林班 3 小班 標高: 1100m

緯度: N36 度 49 分 45.0秒 経度: E137 度 58 分 42.5秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 若齢 林齢: 32 年

＜現地調査＞ 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
9/11	10:35	曇	1	有 <u>無</u>	作業 21枚
10/2	15:45	曇	18	有 <u>無</u>	作業 22枚
10/27	13:10	晴	30	有 <u>無</u>	カメラ撤去
				有 無	
				有 無	
				有 無	

＜写真解析＞ 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0							
1	9/11	10:37	作業	13	9/29	21:45	X
2	9/13	21:49	X	14	9/30	0:28	X
3	9/16	20:18	X	15	10/1	14:55	ホトトギス
4	9/17	7:08	X	16	"	14:56	ホトトギス
5	9/18	23:54	X	17	10/2	15:42	作業
6	9/21	23:09	ネズミ	18	"	15:45	"
7	9/23	23:06	ホトトギス	19	10/4	1:22	ネズミ
8	"	23:07	生物の足?	20	"	19:52	ホトトギス
9	9/25	0:49	ネズミ	21	10/5	1:24	ネズミ
10	"	18:38	ネズミ	22	"	18:47	ホトトギス
11	9/26	18:41	X	23	"	19:09	ホトトギス
12	9/27	19:04	X	24	10/9	5:54	X

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁、山本照光、金森匡彦

装置設置日: 03年 8月23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 03年 8月23日 17:00

フィルム回収日時: 03年 9月11日 10:43

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 う 小班 標高: 1000 m

緯度: N36度 49分 40.8秒 経度: E137度 58分 39.6秒

森林タイプ: 天然林・人工林 (混交林) 発達段階: 若齢〜成熟 林齢: 53 年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
8/23	17:00	曇	1	有 (無)	作業, イヤホク
8/28	16:45	小雨	13	有 (無)	, イヤホク
9/11	10:43	晴	巻上り	有 (無)	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1	8/23	17:08	作業	13	"	16:58	作業	25	"	2:25	ハクビシン
2	"	17:09	"	14	"	22:15	ネズミ	26	"	12:46	ホソキウマズ
3	8/24	2:26	ハクビシン	15	"	22:29	ネズミ	27	"	20:44	ネズミ
4	"	20:04	ネズミ	16	"	22:31	ネズミ	28	"	22:15	ネズミ
5	8/26	0:08	ネズミ	17	8/29	1:31	ネズミ	29	"	23:12	X(不明)
6	"	8:15	調査	18	"	1:48	ネズミ	30	9/1	19:19	ネズミ
7	"	8:53	"	19	"	20:33	ネズミ	31	"	21:03	ネズミ
8	"	22:13	ネズミ	20	8/30	3:41	ネズミ	32	"	21:03	ネズミ
9	"	22:16	ネズミ	21	"	20:57	ネズミ	33	"	21:58	ネズミ
10	8/27	0:29	X	22	"	20:57	ネズミ	34	"	20:58	X
11	"	11:29	X(不明)	23	8/31	0:16	ネズミ	35	"	22:19	ネズミ
12	8/28	16:53	作業	24	"	1:52	ネズミ	36	"	22:19	ネズミ
								E	"	22:22	ネズミ

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小山友和

装置設置日: 2003年 8月23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 9月11日 10:46

フィルム回収日時: 2003年 10月2日 15:58

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 う 小班 標高: 1000 m

緯度: N36度 49分 40.8秒 経度: E137度 58分 39.6秒

森林タイプ: 天然林・人工林 (混交林) 発達段階: 若齢〜成熟 林齢: 53 年

<現地調査> 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
9/11	10:46	曇	1	有 (無)	作業2枚
10/2	15:58	曇	32	有 (無)	フィルム交換
				有 無	
				有 無	
				有 無	
				有 無	

<写真解析> 解析者氏名: 加藤仁

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1	9/11	10:50	作業	13	"	21:45	X	25	"	21:03	ネズミ
2	"	21:26	コウモリ	14	9/22	20:42	X	26	9/29	1:30	ネズミ
3	"	22:13	ホトテ	15	9/23	0:44	ハクビシン	27	9/30	19:42	ネズミ
4	"	23:53	ホソキウマズ	16	"	18:38	ホソキウマズ	28	"	22:36	ネズミ
5	9/12	20:01	ネズミ	17	"	18:38	ホソキウマズ	29	10/1	7:56	ニホンリス
6	9/14	11:28	X	18	"	18:41	ホソキウマズ	30	"	8:03	ニホンリス
7	9/16	3:42	ホトテ	19	"	23:13	ホトテ	31	10/2	7:54	ヤマドリ
8	"	12:32	キジバト	20	9/25	3:13	ネズミ	32	"	15:49	作業
9	"	15:53	X	21	"	5:39	ネズミ	33			
10	9/17	21:51	コウモリ	22	9/27	18:30	ホソキウマズ	34			
11	9/18	21:13	X	23	9/28	14:14	X	35			
12	9/21	8:52	X	24	"	19:44	ネズミ	36			
								E			

自動撮影調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 小嶋友和, 寺澤茂雄

装置設置日: 2003年 8月 23日 装置機種: フィールド・ノートII

フィルム挿入日時: 2003年 10月 2日 15:58

フィルム回収日時: 2003年 10月 27日 13:25

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 ウ 小班 標高: 1000m

緯度: N 36度 49分 40.8秒 経度: E 137度 58分 39.6秒

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 老齢~成熟 林齢: 53 年

〈現地調査〉 月日	時刻	天気	枚数	痕跡	備考
10/2	15:58	曇	1	有 <u>無</u>	作業で1枚
10/27	13:25	晴		有 <u>無</u>	カメラ撤去
				有 <u>無</u>	
				有 <u>無</u>	
				有 <u>無</u>	
				有 <u>無</u>	

〈写真解析〉 解析者氏名: 加藤仁 カメラトラブルで撮影出来ていなかったのか?

ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種	ネガ No	月日	時刻	確認種
0											
1	?	?	?	13				25			
2	10/27	13:23	作業	14				26			
3	"	13:26	"	15				27			
4				16				28			
5				17				29			
6				18				30			
7				19				31			
8				20				32			
9				21				33			
10				22				34			
11				23				35			
12				24				36			
								E			

ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 03年 8月 23日 10:00 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 607 林班 13 小班 標高: 1350 m

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 老齢 林齢: 172 年

緯度: N 36度 53分 33.2秒 経度: E 137度 58分 25.4秒

ステーションの大きさ: — m

〈現地調査〉

月日	時刻	昨夜の天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	10:00	晴	ドングーノド	<u>無</u> 足跡・糞・食痕・他()	
8/28	11:40	小雨	"	<u>無</u> 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	

ケモノ道入り口に設置した。

ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 2003年 8月23日 11:00 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 607 林班 13 小班 標高: 1460 m

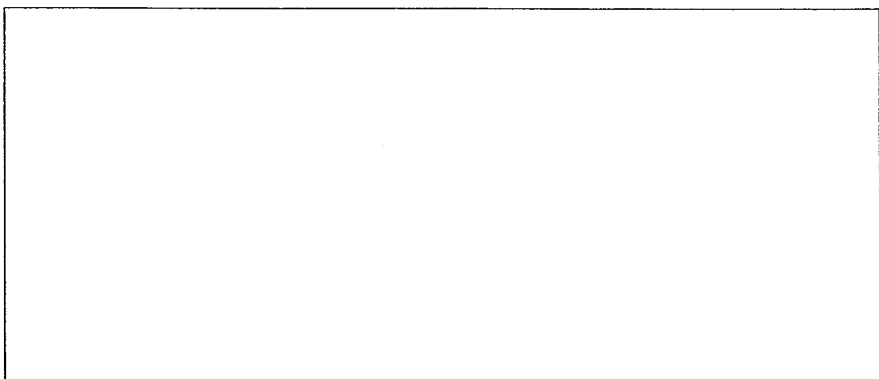
森林タイプ: (天然林)・人工林・混交林 発達段階: 林分成熟 林齢: (172 年?)

緯度: N 36 度 53 分 41.8 秒 経度: E 137 度 58 分 12.4 秒

ステーションの大きさ: ー m

<現地調査>

月日	時刻	昨夜の天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	11:00	晴	ドングラード	⊖ 足跡・糞・食痕・他()	
8/28	12:15	曇	ドングラード	⊖ 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	



ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 03年 8月²³日 14:00 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 612 林班 1- 小班 標高: 1550 m

森林タイプ: (天然林)・人工林・混交林 発達段階: 老成林 林齢: 172 年

緯度: N 36 度 52 分 04.5 秒 経度: E 138 度 01 分 19.6 秒

ステーションの大きさ: ー m

<現地調査>

月日	時刻	昨夜の天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	14:00	晴	ドングラード	⊖ 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
8/28	14:30	小雨	〃	⊖ 足跡・糞・食痕・他(竹モノ道?)	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	

8/28. 確認時にカメラ盗難のため、場所を移動。
新設置は竹モノ道?(キノコ採りの人間の道か?)の所に設置

ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 2003年 8月23日 15:00 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 611 林班 3 小班 標高: 1150 m

森林タイプ: 天然林 人工林・混交林 発達段階: 成熟林 林齢: 172 年

緯度: N 36 度 52 分 04.5 秒 経度: E 138 度 01 分 19.6 秒

ステーションの大きさ: ー m

<現地調査>

月日	時刻	昨夜の 天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	15:00	晴	ドングラード	(無) 足跡・糞・食痕・他()	
8/28	15:00	雨	〃	(無) 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	

カマラの盗難の恐れがあるため、8/28に場所を少し移動した。

96

ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 03年 8月28日 16:40 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 3 小班 標高: 1100 m

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 若木 林齢: 32 年

緯度: N 36 度 49 分 45.0 秒 経度: E 137 度 58 分 42.5 秒

ステーションの大きさ: ー m

<現地調査>

月日	時刻	昨夜の 天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	16:40	曇	ドングラード	(無) 足跡・糞・食痕・他()	
8/28	16:30	雨	〃	(無) 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	

モロイヤードが入林するため、8/28に設置場所を移動した。

ニオイステーション調査 記録用紙

中部森林管理局 中信森林管理署 小谷森林事務所

調査者氏名: 加藤仁

装置設置日: 03年 8月 23日 17:00 終了日: 年 月 日 :

調査地: 天狗原 国有林 615 林班 う 小班 標高: 1000 m

森林タイプ: 天然林・人工林・混交林 発達段階: 若齢〜成熟 林齢: 53 年

緯度: N 36 度 49 分 40.8 秒 経度: E 137 度 58 分 39.6 秒

ステーションの大きさ: ー m

<現地調査>

月日	時刻	昨夜の 天気	誘引物質	確認された痕跡	
				種類	種名
8/23	17:00	曇	ドッグフード	○ 無 足跡・糞・食痕・他()	
8/28	16:45	小雨	"	○ 無 足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	
				無・足跡・糞・食痕・他()	